

「OKIらしい社会貢献活動」の一つのルーツ 血液事業の支援活動を継続

OKIは、1964年に日本初の企業集団献血を行って以来、グループを挙げて日本赤十字社が推進する血液事業を支援しています。現在も多数の社員が献血に参加するほか、保冷库付献血運搬車の寄贈などを継続的に実施しています。こうした40年以上にわたる活動実績が評価され、2006年7月には「昭和天皇記念献血推進賞」を受賞しました。

日本で初めての企業集団献血を実施

1964年8月21日、OKIは品川事業所(当時)において、日本で初めての企業集団献血を実施しました。この集団献血は、売血による輸血後肝炎が大きな社会問題となり、国民の間に献血思想が芽生え始めるなか、「多くの社員を抱える事業所だからこそ、何か協力したい」という一社員の提案がきっかけとなって計画されたものです。日本赤十字社中央血液銀行(当時)の協力のもと、175名の社員が参加して行われたOKIの集団献血の様子は、新聞やテレビにもとり上げられ、その後の企業献血の促進に大いに貢献しました。この日は、売血を禁止し、輸血用血液をすべて献血で確保することが閣議決定された日でもあり、現在は「献血の日」と呼ばれています。

これ以降、OKIはグループを挙げて献血活動に取り組んでいます。現在は、年間のべ2,000名を超える社員が参加し、このうち65%以上が400ml献血を行うなど、安全な血液の確保に貢献しています。さらに2001年度からは、日本企業として初めて、東京、埼玉、群馬、静岡の全事業所で献血併行型の骨髄バンクのドナー登録会を開催するなど、活動の範囲を広げています。



第1回献血の実施を伝える、当時の社内報記事

マッチングギフトにより 保冷库付献血運搬車などを寄贈

OKIは、1996年度に寄付型ボランティア活動「OKI愛の100円募金」(P32参照)を開始しており、これを活用した最初の活動

として、長年の献血活動から社員に馴染みの深い日本赤十字社への車両の寄贈を実施しました。賛同する役員・社員から集めた月々100円の募金に、会社が同額を上乗せする「マッチングギフト」により、初年度の1996年度は保冷库付献血運搬車と広報車を各1台寄贈。以来、2006年度までに広報車2台と保冷库付献血運搬車14台を寄贈しました。このほか、日本赤十字社のホームページの充実のための協賛金を会社から提供しています。



2006年度に寄贈した献血運搬車
(2007年2月5日、滋賀県赤十字血液センターにて)

「OKIらしい社会貢献活動」として継続

このように、企業集団献血をはじめ、40年以上にわたって取り組んできた血液事業への支援活動が評価され、OKIは、2006年7月13日に開催された「第42回献血運動推進全国大会」(主催:厚生労働省、日本赤十字社、群馬県)において「昭和天皇記念献血推進賞」を受賞しました。

「昭和天皇記念献血推進賞」は、「過去に『日本赤十字社金色有功章』および『厚生労働大臣表彰状』を受けている団体および個人で、献血思想の普及ならびに献血推進運動の進歩発展について、特に優れた功績が認められたもの」に授与されるもので、OKIは1997年の「日本赤十字社金色有功章」、2002年の「厚生労働大臣表彰状」を経て今回の受賞に至りました。

現在、OKIの社会貢献活動は「OKI愛の100円募金」を中心に多方面へ広がっていますが、血液事業の支援活動はその一つのルーツといえます。今回高い評価をいただいたことを誇りに活動を継続するとともに、その精神を継承したさまざまな「OKIらしい社会貢献活動」を推進していきます。



日本赤十字社の名誉副総裁である皇太子殿下から表彰を受けるOKI社長 篠塚 勝正